

日頃は、大変お世話になっております。
不動産、建築、社会・経済等のニュースレターです。
お時間のある時に気軽に読んで頂き、少しでも皆様のお役に立てれば幸いです。

景気判断4年10カ月ぶり「悪化」 5月動向指数、輸出などマイナス 070708

内閣府が7日発表した5月の景気動向指数による景気の基調判断は2020年7月以来の「悪化」となった。定義上、景気後退局面にある可能性が高いことを示す。輸出や卸売販売額がマイナス要因となっている。トランプ米政権の関税政策次第で、経済の下押し圧力は一段と高まる懸念もある。

足元の経済状況を示す一致指数(2020年=100)は115.9と前月から0.1ポイント下がった。2カ月ぶりの低下となった。指数を構成する10項目のうち5項目がマイナスの要因になった。

指数の3カ月平均の動きなどに基づく機械的な基調判断は前月までの「下げ止まり」から「悪化」に転じた。「悪化」は消費税増税や新型コロナウイルス禍の時期が重なった19年8月～20年7月以来だ。

内閣府の担当者は「今月の低下幅は小幅だ。コロナ禍と同じ状況に陥っているわけではなく、今後の指数の動きをより慎重にみるべきだというサインだ」と説明する。景気後退局面にあたるかどうかは経済学者らでつくる研究会が国内総生産(GDP)の動きなどを含めて総合的に検証し、内閣府が事後的に判断する。

日経新聞